



別添1

2022年事業報告

1. 総括

引き続き新型コロナウイルス感染症による影響はあったものの、2020年より構築したZoomをさらに活用したオンラインによる審判講習会、オンライン大会を企画し、世界のAGGイベントに大きく貢献しました。

2022年夏以降は、国内外の入国規制も大きく緩和され、日本チームとしては3年ぶりに国際大会に参加を実現させることができました。

2022年10月には、マレーシアでワールドカップ、チャレンジカップ、アジア選手権大会、MAGGA Cupが開催され、2019年4月にシンガポールで開催されたワールドカップイベント以降、久しぶりのアジアでのIFAGG国際大会に500名以上の選手が世界各地から参加し、大会は大盛況でした。日本からは、チルドレン2チーム、ジュニア2チームの4チームが参加し、表彰台にあがることができました。ワクチン接種が完了できていない日本からの参加者は帰国前PCR検査が必須であったため、大会日程とPCR検査日程を考慮しながらの調整もあり、マレーシアの大会組織委員会には大変お世話になりましたが、全員無事に帰国することができました。国際大会参加することはこれまでとは異なり少々困難も伴いますが、日の丸を背負って大会に参加した選手たちが体験した貴重な経験は何にも代え難いものであったでしょう。コロナが収束しつつある中で、残念ながら世界を分断する戦争が2022年2月に始まりました。IFAGGのメンバーの中でも大きく分断、またはその狭間に入り苦しむ人々は少なくありません。世界の平和、これまでであった日常の幸せが私たちの国際大会出場や、大会開催運営に大きく関わっていることを思い知らされた2022年でありました。

2022年11月オーストリアのグラーツで世界選手権大会が開催され、日本からは3年ぶりにTeam Shoin Phoenix (樟蔭学園) が出場を果たしました。久しぶりの日本チームの参加に、世界のAGG関係者から大きく注目されました。チームのメンバーは皆はじめての世界大会出場でしたが、大きな緊張感の中、予選・決勝ともに観客を魅了する圧巻の演技で、日本の単独チームとしては初めての予選・決勝で18点台の高得点をマークし5位に入賞を果たしました。これまでは日本は、世界選手権にシニア3チームを派遣し、国別銅メダルを獲得してきましたが、コロナ禍でチーム派遣を断念せざるを得ない状況が続き、表彰台への機会が途絶えています。今後の課題としては、世界に通用するシニア・ジュニアのチームを排出し、世界選手権大会におけるチームランキングおよび国別ランキングで表彰台に再び上がることを目指していきます。

2. 登録団体会費納入制度導入

2022年度よりJFAGG会費として、年1回30,000円の登録団体より納入いただき、円滑かつ、より良い組織運営を目指しとともに活動を支える重要な運営費と位置づけ、この制



度を開始しました。この件については、2021年度中に登録団体の皆様からご意見ご要望を出していただき、2022年度より会費制度を導入することに至りました。

これにより、JFAGG会費を納入した登録団体は、JFAGGが開催する大会や講習会などの競技に関するイベントへの参加はもとより、総会への出席、理事への選出が合理化されました。

3. IFAGGB-カテゴリー競技会AGGメロディーカップ in 浜松

静岡県浜松市にて11月12～13日でAGGメロディーカップ in 浜松を開催しました。この大会は国際AGG連盟IFAGGのB-カテゴリー競技会として開催し、入国規制緩和もあり韓国、マレーシアのチームを合わせて32チームが参加し、日本国内で開催された初めてのAGG国際大会となりました。今大会は、静岡県浜松市スポーツ大会開催事業費補助金事業として開催されました。会場となった浜松市雄踏総合体育館には今大会のために競技用のフロアマットを購入していただき、参加した選手たちは公式フロアマットの上で思いっきり演技をすることができました。今大会のすべての関係者の皆さまには深く感謝を申し上げます。今後さらなる努力をし、より良い現地大会の運営を目指して参ります。